



ろうさい病院 つうしん

発行所: 中部ろうさい病院

〒455-8530 名古屋市港区港明1-10-6
http://www.chubuh.rofuku.go.jp/

TEL: 052-652-5511
FAX: 052-653-3533

時と空間は理性が癒しえないものを癒す



院長 堀田 饒

日頃は、病診あるいは病々連携を介して多大な御支援をいただき誠にありがとうございます御座居ます。職員一同に代わって、厚くお礼を申し上げます。

創立50周年という節目の年、加えて病院の全面改築という大きな事業の完成という時期に、病院長を務められますことは非常に光栄に存じます。昭和37年3月22日に、内科、外科、整形外科の3診療科50床で中京工業地域の中核病院として産業医学を担うべくスタートし、創立早期から総合診療を目指して参りました。しかるに今日、22診療科621床（稼動556床）となり、勤労者医療はもとより、地域住民の健康を守るに不可欠な急性期医療を担うに十分な体制と環境が整ったと言えます。

ともすれば、機能一転ばりの病院が誕生する中であって、当病院の増改築に際して私が掲げたコンセプトは、①病院らしくない病院、②心の癒される病院、③訪れ易く、楽しく働ける病院、です。加えて、来院者に不快感を抱かせない対応と、職員間の意志の疎通をはかることを

願って、4年間で100回にも及ぶ全職員参加の“ブレインストーミング”を実施して、職員の意識改革に努めました。ハードの部分、ソフトの面から捉えても恥じない“新生中部ろうさい病院”が誕生し、御利用いただきます皆様の期待に応えられる環境とスタッフが整ったのではと自負しています。

ローマ時代の哲学者セネカは、“時は理性が癒しえないものを癒す”と述べています。現代的に言い換えれば、いくら最先端の医療技術と機器を持ってしても解決出来ない問題を時間が糸口を見出すと、意識出来ます。更に、そこに時間を過す素晴らしい空間（環境）があれば病人を癒す効果は倍増され、回復は早いとしても過言ではありません。そんな空間を設えようという意図の下に、新病院が建設されました。何かの折にでも、体感していただければ幸甚です。

至らない点が多々あるかと思いますが、旧にも倍して御指導いただけますようお願い申し上げます。

糖尿病センター 医師診察予定表 ●副院長 ◎部長 △副部長

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
糖尿病センター	◎河村 孝彦 △金井 彰夫 渡会 敦子	●佐野 隆久 ◎中島英太郎 長嶋 正仁	堀田饒(院長) ●佐野 隆久 今峰 ルイ	◎河村 孝彦 ◎中島英太郎 長嶋 正仁	●佐野 隆久 中村 信久 渡会 敦子

着任のご挨拶

小児科副部長 大木 隆史



平成20年4月1日付けで小児科に赴任いたしました。

大木 隆史（おおき たかし）と申します。

9年前の旧病院時代に勤務していたこともあり、顔見知りの人に出会うとうれしい思いがします。医局の都合で平成12年3月までの1年間とけっこう短い間でしたので、みなさんの記憶にはそんなに残っていないのではとおもったのですが、けっこういろいろと声をかけていただき意外と覚えていたこと（良くも悪くも、でしょうか）にびっくりしました。平成11年4月にこの病院で産まれた子どもも、もう小学校3年生です。当然といえば当然ですが月日のたつのは早いものだと思われ驚かされます。ちなみに一緒に写っているのがその息子です。赤ん坊がやんちゃな坊主になるのですから、小生の頭が白くなるのも当たり前でしょうか。

私個人の略歴を少し紹介しますと、昭和63年に名古屋大学医学部を卒業しました。小児科

の中では発達やけいれん性疾患などの神経を専門領域としています。平成12年中部労災病院から愛知県コロニー中央病院へうつり、その後市立半田病院に勤務した後で再びろうさい病院にお世話になることとなりました。旧病院の小児科外来から見える、植物の生い茂る（草ぼうぼうと言う人もいますが）中庭の風景も好きでしたが、今の機能的な病院の感じも気に入っています。システムの話が時々出てきますが、結局のところはどんないいシステムでも使う側ではないかと思えます。救急の面では人的な問題もあってなかなか進んでいませんが、よりよい診療体制をつくっていきたいと思っています。どうぞこれからもよろしくお願いいたします。



小児科 医師診察予定表 ◎部長 △副部長

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
小児科	◎山田 政功 大島美穂子	△立松or△大木 堀江妥永子	◎山田 政功 △大木 隆史	△立松 寿 堀江妥永子	◎山田 政功 堀江妥永子

耳鼻咽喉科 医師診察予定表 ●副院長

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
耳鼻咽喉科	加藤 正大 鈴木 宏和 池田 篤彦	●正木 道憲 秋田 学 池田 篤彦 鈴木 宏和	秋田 学 鈴木 宏和 加藤 正大	●正木 道憲 加藤 正大 池田 篤彦	秋田 学 加藤 正大 池田 篤彦
特殊外来午後		中耳・甲状腺・頭頸部他	めまい(月1回)・補聴器他	睡眠時無呼吸・鼻他	

耳鼻咽喉科領域の癌

耳鼻咽喉科 池田 篤彦



耳鼻咽喉科領域で扱う癌は頭頸部癌とよばれ、全癌の約5%を占めるといわれております。その種類としては聴器癌、口腔癌、鼻・副鼻腔癌、咽頭・喉頭癌、唾液腺・甲状腺癌などがあり、頸部から上の臓器（脳、眼、皮膚を除く）に発生する癌をいいます。これらの部位の特徴としては聴覚・平衡覚・嗅覚・味覚などの感覚器を含む、呼吸・発声・摂食・嚥下などに関係している、組織に余裕がない、衣服で覆われない部分が多く容貌が損なわれる可能性が大きい、比較的放射線感受性が高い腫瘍が多い、などがあげられます。

頭頸部癌の多くは口腔、咽頭・喉頭領域や食道および肺に重複多発する傾向があり、さらに重要なことは喫煙と過度の飲酒がその発生の強い誘因として関わっていることが判明しています。およそ85%に飲酒歴または喫煙歴があるともいわれています。このような共通の誘因により、いくつかの領域にまたがって広く発癌する現象は広域発癌（field cancerization）といわれ、最近注目されてきました。1953年、Slaughterらによって提唱された概念で、癌を引き起こす物質にさらされる粘膜は、広い範囲（field）にわたって癌が発生する危険性ははらおという仮説を提唱しました。このような「条件づけられた上皮」、あるいは「運命づけられた粘膜」では、癌を引き起こす物質にさらされることで、単一部位の癌化でなく、多くの場所が別個に活性化し、多発的に破壊されて癌が生じます。口腔、咽頭、喉頭、食道、気管・気管支などの粘膜がこれに該当し、癌を引き起こす物質として、タバコ、アルコールが挙げられます。喫

煙が虚血性心疾患や種々の癌など多くの疾患の誘因であり、受動喫煙も含めて健康に悪影響を及ぼすことは今や周知の事柄です。飲酒に関しても、口唇口腔癌、咽頭癌、喉頭癌、食道癌、肝臓癌は過度の飲酒により発生しやすい飲酒関連癌に規定されています。（IARC 1988, WHO 2003）

一方、アルコールを体内で分解する過程で、毒性の強いアセトアルデヒドという物質が産生されますが、これをさらに分解する能力の弱い人が遺伝的に存在し、日本人に多くみられます。そのような人たちはわずかな飲酒でも癌発症の危険性が増すことが分かってきました。頭頸部領域には多種多様の日常生活を営むのに重要な臓器機能、また外見としての美容の面もあるため、治療にあたっては患者の希望と治療成績の確保のジレンマを感じることが多くあります。また、治療内容も実施の可能性を含めた選択が加わることがあり、かなり複雑かつ判断が難しい部位でもあります。頭頸部癌における標準的治療の主体は手術と放射線治療であり、化学療法はそれらを用いた集学的治療のなかで活躍し単独では治癒をもたらすほどの力ではなく補助的治療として用いられているのが現状です。そして治療は腫瘍の発生部位や病理組織診断、進行度によって大きく異なり、手術・放射線・化学療法を組み合わせで行われています。

前述したような特徴を持つ頭頸部癌に、形成外科、放射線科、消化器外科、口腔外科等と連携しながら集学的治療を行い、機能障害が最小になるよう努めております。このような症例がございましたらご相談していただくと幸いです。

連携室だより

病診連携セミナー開催報告について

平成20年8月20日(木)に当院2階講堂にて病診連携セミナーを開催致しました。

当院の腎臓内科 志水副部長が「一般診療における腎疾患について」の講演を行いました。参加者は21名（登録医8名）でした。

講演会に引き続き行われた懇親会での内容は次のとおりです。

● 病院からの確認事項

- ・ 転科があった場合などに転科先の診療科より返書は届いていますか。
→ 病院のシステム上もれがあるのは仕方ない。そういった場合でも、連携室へ一報入れればすぐに返事が届くので十分満足しています。
- 転科の場合もできるだけもれないよう返書管理に努めていきたいです。

● 登録医の先生方からのご意見

- ・ 病院も立派になりましたが、その分各診療科によっては待ち時間が非常に長くなっているのでは。
→ 心療内科では新患予約制を導入していることで予約時間が守られていますし、また、紹介状を持参して頂いた患者さんは他の患者さんより優先して診察しております。事前に地域医療連携室へご連絡いただければ、病診専用の時間枠の中で予約も可能です。
 - ・ 詳細な返書を頂くことが多い。手間がかかっているのは先生方の負担にもなりますので、もっと簡素化してもよいのでは。
 - ・ 時間外の対応はどうなりますか。
→ 平日の8：15～19：30は連携室が開いていますのでご連絡いただければ、対応いたします。またこれ以外の時間帯、土、日については救急外来での対応となります。
- 貴重なご意見ありがとうございました。

医師交代

☆ 辞 職 (平成20年6月30日付)

内山 功子 (消化器科医師)
安藤 博彦 (循環器科医師)
吉田 忠雄 (耳鼻咽喉科医師)
永坂由紀子 (麻酔科医師)

(平成20年9月30日付)

林 加奈子 (産婦人科医師)

☆ 採 用 (平成20年7月1日付)

竹中 拓晴 (心臓血管外科 副部長)
児玉 佳子 (消化器科医師)
加藤 正大 (耳鼻咽喉科医師)
(平成20年9月1日付)
新藤 和代 (産婦人科医師)

地域医療連携室のメンバーです!!



当院、地域医療連携室のメンバーです。連携室員、MSW、社会復帰指導員と日々協力し業務に専念しております。少しでも皆様のお役に立てればと思います。

今後ともよろしく願いいたします。

☎ 地域医療連携室 (平日8：15～19：30)
052-652-5950 (TEL)
052-652-5716 (FAX)

室 長：小林 建仁 (副院長)
佐野 隆久 (副院長)
事務担当：中村祐子・金井久実